

(限 内 部)

海軍公報

(部内限) 第千九十九號

海軍大臣官房

大正十三年六月二日(月)

○通牒

聯合艦隊機密第一ノ一五號

大正十三年五月三十日横須賀旗艦長門

聯合艦隊司令部

關係各部御中

安藝、薩摩ヲ標的トスル研究射撃

委員名ニ關スル件

本年官房第一一八六號ヲ以テ指定セラレ候首題委員名

聯合艦隊司令部宛御通報ヲ得度

右照會ス

海軍公報(部内限)第一〇九九號 大正十三年六月二日

二二七

1663

(限 内 部)

海軍公報 (部内限) 第一千百號

海軍大臣官房

大正十三年六月三日(火)

○ 令 達

官房第一三八九號ノ二

本年五月官房第一三八九號ニ左ノ一項ヲ加フ

「海軍燃料廠探炭部及平壤鑛業部ノ鑛夫ニ對シテハ七月一日現在員ニ就キ同様ノ標準ニ據リ賞與ヲ支給スルコトヲ得」

大正十三年六月三日

海軍大臣 村上 格

○ 通 牒

恩第一七三號ノ二

本年三月十三日海軍公報(部内限)通牒欄恩第一七三號橫須賀戒嚴司令官ノ指揮下部隊中海軍水雷學校ノ次ニ海軍機關學校ヲ加フ

大正十三年五月三十日

海軍省人事局長 山梨勝之進

海軍公報(部内限)第一一〇〇號 大正十三年六月三日

三一九

教育第二八號ノ一六

大正十三年六月二日

海軍省 教育局

無線電信遠距離受信檢定成績調査資料ノ件

大正十三年五月第十六回無線電信遠距離受信檢定信文

送信要目左記ノ通

右通知ス

信文		大湊海軍無線電信所 送信		信文修正	
番號	送信日時	波長 (米)	電流 (分間)	送信日時	送信ノ本文
二	二十三日 午前九時一分	五〇〇〇	一四	六	交付日時「ロヨチヨ」ト送信シ本文十二字「日一六」ヲ「一八」ト送信ス、同五十一字「日一ニ」ハ「不正字」ト八十字目「九」ヲ「八」ト送信ス
三	同十一時一分	五〇〇〇	一四	六	
四	午後零時一分	五〇〇〇	一四	六	本文八十三字目「三」ヲ「四」ト送信ス

五同	一時五分	五〇〇	一四	八〇	交付日時「セヨロ」 リヤト送信ス
六同	一時十四分	五〇〇	一四	六	本文八十五字目「九」 ハ不正字 同九十九 ハ字目ニテ消信ヲ行 フ
七同	二時〇分	五〇〇	一四	八	
八同	二時十分	五〇〇	一四	八	本文九十五字目「七」 ナ「八」ト送信ス
九同	三時三分	五〇〇	一四	六	

考	備
一	天候晴
二	送信番號一ハ午前八時送信、誤字多キ爲取消 セリ
三	午後二時ニ送信番號五、六ニ通リ送リ同二時 ニ同七、八ニ通リ送ル
四	送信状態 送信番號一、二電輪不具合 第三回 (十時)ニ蓄電器短絡ノタメ送信不能

○ 辭令

海軍省ニ於ケル燃料油調査囑託
農商務技師 千谷 好之助

自今報酬月額貳百圓ヲ贈與ス

海軍省ニ於ケル燃料油調査囑託
農商務技師 本間 右京

自今報酬月額百圓ヲ贈與ス

○ 職工解備

海軍技術研究所ニ於テ本年五月中解備セル職工左ノ如シ

解備月日	解備事由	職工名	氏名	生年月日
五、一	海軍工務規則第 二十八條第八號	實驗工		明治 三〇、三、三

○ 雜款

(各通)

海軍省ニ於ケル燃料油調査囑託
農商務技師 千谷 好之助

海軍省ニ於ケル燃料油調査囑託
農商務技師 本間 右京

東部西比利亞へ出張ヲ命ス(以上ニハ海軍省)

講習員

神戶造船監督官	海軍造船大尉	齊藤六郎
佐世保工務廠	同	烟藤敏男
舞鶴要港部	同	山村彌平
吳工務廠	海軍造船中尉	信雄
横須賀工務廠	同	福原信夫
舞鶴要港部	海軍造船機中尉	花田義明
吳工務廠	同	八戸義隆
横須賀工務廠	同	大島與八郎
佐世保工務廠	同	村上三次
舞鶴要港部	海軍造船兵大尉	安瀬正晋
佐世保工務廠	同	成瀬正二
吳工務廠	同	松平一博
海軍火藥廠	同	美川一雄
廣工務廠	同	芳野任四郎
吳工務廠	同	藤原藤樹
佐世保工務廠	同	佐野俊次
横須賀工務廠	同	伊東祐親
同	同	佐藤一昌
同	同	遠藤進
海軍造船兵中尉		
海軍技師		

通牒

官房第一七四六號ノ二

大正十三年六月四日 海軍大官 岡田啓介

各 屬 長 殿

彼勳内則中改正ニ關スル件

本件ニ關シ賞勳局總裁ヨリ別紙ノ通牒有之候

台通牒ス

勳内則第六五號

大正十三年五月二十七日

賞勳局總裁子爵 仙石政敬

海軍大臣 岡田啓介

通 牒

彼勳内則中別紙ノ通改正ニ關スル件

彼勳内則中左ノ通改正ス

第二十條中「官吏恩給法第二條第三條第四條第十三條

第二項ニ依リ退官シタル者」ヲ「恩給法第六十條第一

項第五項第四十六條官内省恩給令第四十四條第一項第

四項第三十一條ニ依リ退官シタル者」ニ、同條但書中

「官吏恩給法第三條軍人恩給法第四條第二項第三項ニ

掲ケタル者」ヲ「恩給法第四十六條官内省恩給令第三

十一條ニ依リ退官シタル者」ニ改正ス

第二十四條第一項第一號中「從軍年」ヲ「第二十六條ニ依ル加算年」ニ改ム
第二十六條ヲ左ノ如ク改ム
從軍其ノ他特殊ノ勤務ニ服シタル者ハ恩給法第三十二條乃至第三十五條ニ依リ加算スルコトヲ得但恩給法第三十五條ニ該當スルモノニ就テハ議定官ノ議決ヲ以テ取捨ス

附則

本則ハ大正十二年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

(限 内 部)

海軍公報

(部内限) 第千百二號

大正十三年六月五日(木)

海軍大臣官房

○令 達

聯合艦隊機密第五ノ三二號

大正十三年五月三十一日 横須賀旗艦長門

聯合艦隊司令部

關係各部御中

無線電信遠距離受信檢定ノ件

六月第三金曜日ノ無線電信遠距離受信檢定送信艦長門

送信波長 二千六百米

右通知ス

海軍公報(部内限)第一二〇二號 大正十三年六月五日

二二五

1670

(限 内 部)

海軍公報

(部内限) 第千百三號

海軍大臣官房

大正十三年六月九日(月)

○ 辭 令

第三航空船爆發事件查問會委員長ヲ命ス
海軍少將 白根 熊三

海軍大佐 上田 良武

同 金子 養三

同 大關 鷹麿

海軍中佐 服部 正計

海軍大尉 大西 瀧治郎

海軍機關少佐 向坂 六郎

海軍機關大尉 嘉納 吉彦

海軍造兵大尉 中村 龍輔

海軍法務官 小池 廣澄

海軍技師 福井 勇藏

第三航空船爆發事件查問會委員ヲ命ス
海軍大佐 矢島 健夫

信管審査委員會委員ヲ免ス

(各通)

信管審査委員會委員ヲ命ス(以上ハ海軍省)

海軍大佐 田子島 茂利

海軍少佐 茗荷 秀雄

海軍公報(部内限) 第一〇三號 大正十三年六月九日

二二七

1671

(限 内 部)

海軍公報

(部内限) 第千百四號

海軍大臣官房

大正十三年六月十日(火)

○通牒

官房機密第八〇六號ノ二

大正十三年六月十日

海軍省副官 藤田 尚徳

海軍教育制度調査會ハ廢止セラレタリ
右通牒ス

○雜款

○通信

海軍無線電信所部外通信狀況要覽中無線電信所舞鶴ノ
項通信波長ノ欄「*一五〇〇」ヲ「三六〇〇」ニ改ム

(大正十二年八月六日部内限公報参照)

○正誤

五月二十六日部内限公報辭令欄中稻石正雄ノ辭令文ハ
取消ス

海軍公報(部内限) 第一一〇四號 大正十三年六月十日

二二九

1672

(限 内 部)

海軍公報 (部内限) 第一千五百五號

大正十三年六月十一日(水) 海軍大臣官房

○通牒

艦本第三三五二號

大正十三年六月九日

海軍艦政本部長 男爵 安 保 清 種
海軍省經理局長 深 水 貞 吉

各關係廳長殿

有規格鋼材價格ノ件

大正十三年度ニ於テ製鐵所ヨリ供給ヲ受クヘキ有規格鋼材價格左記ノ通同所ト協定致候
右通知ス

記

- 一、軟 鋼 各品種共 壹應ニ付 金百六拾圓
 - 一、高張力 鋼 同 金百九拾圓
 - 一、特製堅質鋼 同 金貳百圓
- 但七封度半未滿ノ軟鋼板ニシテ緊張力試験ヲ要スルモノハ軟鋼價格ノ壹割増

汽罐用鋼材ハ軟鋼價格ノ壹割五分増
亞鉛引鋼板、脆付鋼板、鍛成品、ポートルトナット、
リベット及工具用鋼其ノ他ノ特種品價格ハ註文ノ
都度別ニ協定スルコト

○辭令

海軍中佐 松崎 伊織
軍港要港勢力標準調査委員會委員ヲ命ス
海軍軍事普及委員會委員ヲ命ス(海軍省)

海軍公報(部内限)第一二〇五號 大正十三年六月十一日

二三一

(限 内 部)

海軍公報(部内限)附録

大正十三年六月十一日(水)
海軍大臣官房

大正十三年三、四月中ニ於ケル艦船恩給年加算始終期左ノ通 (海軍省軍務局)

艦船名	始 期			終 期			加算率	記 事
	年 月 日	地 名	行 先	年 月 日	地 名	任 務		
日向	一三、三、八	佐世保	支那	一三、三、二〇	馬公	外國鎮戍	一月半	
長門	同	同	同	同	同	同	同	
陸奥	同	同	同	同	同	同	同	
淺間				一三、四、五	横須賀			
八雲				同	同			
磐手				一三、三、二七	同			
利根	一三、四、二	佐世保	支那			外國鎮戍	一月半	
筑摩	一三、三、八	同	同	一三、三、一九	馬公			
明石				一三、四、二二	二見			

海軍公報(部内限)附録

江 風	羽 風	沖 風	澤 風	峯 風	谷 風	淀 風	迅 鯨	夕 張	五 十 鈴	大 井	北 上	多 摩	天 龍	對 馬
一三、三、八	同	同	同	一三、三、一九	一三、三、八	一三、四、一四	同	同	一三、三、八		一三、三、一九	同	一三、三、八	
同	同	同	同	吳	佐世保	二見	同	同	佐世保		吳	同	佐世保	
同	同	同	同	同	支那	南洋	同	同	支那		同	同	支那	
同	同	同	同	同	外國鎮戍	遠洋航海	同	同	外國鎮戍		同	同	外國鎮戍	
一三、三、二〇	同	同	同	一三、四、一六	一三、三、二〇		一三、三、一九	同	一三、三、二〇	一三、三、四	一三、四、一六	同	一三、三、二〇	一三、三、二九
馬公	同	同	同	佐世保	馬公		同	同	同	馬公	佐世保	同	馬公	佐世保
同	同	同	同	同	一月半	半月	同	同	一月半		同	同	一月半	

海軍公報(部内限)附録

松	榊	樺	橘	櫻	驅逐艦 第五	驅逐艦 第三	驅逐艦 第一	波 風	沼 風	野 風	帆 風	太刀 風	夕 風	秋 風
一三、三三〇		同	同	一三、三三一	同	同	同	同	同	同	同	一三、三一九	一三、三二三	一三、三一九
馬公		同	同	旅順	同	同	同	同	同	同	同	同	同	吳
南支那		同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
外國鎮戍		同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
一三、四三〇	一三、三二四	同	同	一三、四二二	同	同	同	同	同	同	同	同	同	一三、四一六
同	馬公	同	同	旅順	同	同	同	同	同	同	同	同	同	佐世保
一月半		同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同

三

1676

潜水艦 第三十	潜水艦 第二十九	潜水艦 第二十八	驅逐艦 第十八	驅逐艦 第十六	驅逐艦 第十四	驅逐艦 第十二	葛	藤	薄	萩	葵	菊	桐
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	一三、三、八	一三、三、三一
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	佐世保	旅順
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	支那
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	一三、三、一九	同	同	同	同	同	同	同	同	同	一三、三、二〇	一三、四、二
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	馬公	旅順
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同

佐多	松江		鶴見	高崎	神威	隠戸				大泊	石廊	潜水艦第五十七	潜水艦第四十七	潜水艦第四十六
	一三、四、二三	一三、四、一六		一三、三、八	一三、三、一五	一三、三、一八	一三、四、一五	一三、三、二七	一三、三、五		一三、三、四	同	同	同
	二見	佐世保		同	横須賀	吳	同	同	小樽		吳	同	同	同
	南洋	タラカン		南洋	北米沿岸	タラカン	同	同	露領沿岸		北米沿岸	同	同	同
	遠洋航海	外國鎮戍		遠洋航海	同	同	同	同	外國鎮戍		外國鎮戍	同	同	同
	一三、四、一五		一三、三、一九	一三、四、六		一三、四、一七	一三、四、二三	一三、四、三	一三、三、二〇	一三、三、一		同	同	同
	舞鶴		馬公	横須賀		吳	同	同	同	小樽		同	同	同
	半月	一月半		半月	同	同	同	同	一月半		一月半	同	同	同

九三〇ノ
三二頁ニ
太陽ノ
入目
ハコト

船名	一三、三、八	横須賀	北米沿岸	外國鎮戍	一月半
（在役艦ノ部）					
神	一三、四、一			在役艦	半月
柏	同			同	同
松	同			同	同
杉	同			同	同
檜	同			同	同
榎	同			同	同
桑				同	一三、三、三一
椿				同	同
横				同	同
樺				同	同
第四驅逐艦	一三、四、一			在役艦	半月
第四十三潜水艦					一三、四、二五
第六十九潜水艦	一三、四、二九			在役艦	一月

海軍公報（部内限）附録

六

1679

左記艦名ノ下ニ各（ ）ヲ挿入ス
 白雪、叢、野分、松風（一三、四、一 驅逐艦籍ヨリ除カル）
 杉ノ部 終期ノ欄中「一、二、一〇馬公」ハ「一、二、一〇馬公」ノ誤
 菱、蕨ノ部 終期ノ欄中「一、二、一〇馬公」ハ「一、二、一〇馬公」ノ誤
 安宅、隅田、伏見、鳥羽、比良ノ部 左ノ項ヲ加フ

ヨリ外國艦成

一月半

参照事項 四二頁ノ五 「海軍水雷學校」ノ次ニ「海軍機關學校」ヲ加フ

海軍公報（部内限）附録

七

1680

(限 内 部)

海軍公報 (部内限) 第一千百六號

海軍大臣官房

大正十三年六月十二日(木)

○通牒

教育第二八號ノ一七

大正十三年六月十日

海軍省教育局

無線電信遠距離受信檢定成績調査資料ノ件

大正十三年六月第十七回無線電信遠距離受信檢定信文
送信要目左記ノ通
右通知ス

番號	信文	東京海軍無線電信所 送信
一	六月六日 午前八時	四 分 六〇〇 吾
二	九時	三 分 六〇〇 四九
三	十時	三 分 六〇〇 四九

時間	波長	電流	速度	修正
四同十一時	三 分	六〇〇	吾	六
五午後零時	三 分	六〇〇	吾	六
六同 一時	三 分	六〇〇	吾	六
七同 二時	四 分	六〇〇	四九	六
九同 三時	十一 分	六〇〇	四九	六

○雜款

○廢棄艦士佐對魚雷、機雷、爆彈及第十八潛水艦對魚雷實驗日程第八日(爆彈實驗)ヲ六月十四日トス
(五月三十一日海軍公報(部内限)第九十八號參照)

海軍公報(部内限)第一二〇六號 大正十三年六月十二日

二三三

(限 内 部)

海軍公報 (部内限) 第一千七百七號

大正十三年六月十四日(土) 海軍大臣官房

○令 達

官房第一八六七號

今般海軍軍醫學校ニ於テ第六回臨時醫術講習ヲ施行ス
左記ニ依リ講習員ヲ派遣スヘシ

大正十三年六月十四日

海軍大臣 財 部 彪

一、講習員

海軍軍醫中佐 加藤 勝 雄

海軍軍醫少佐 西村 盛 業

同 井上 重 臣

海軍藥劑大尉 濱田 吉 三

二、講習時期

大正十三年六月二十日ヨリ同年八月八日迄

官房第一八六七號ノ二

海軍軍醫學校ニ於ケル臨時講習員タル藥劑科士官ノ講

習科目ハ藥學ニ關スル最新學說及其ノ實習ト心得ヘシ
海軍軍醫學校長ハ講習開始前實施計畫ヲ作り之ヲ提出
スヘシ

右訓令ス

大正十三年六月十四日

海軍大臣 財 部 彪

○通 牒

教育第三二三號

大正十三年六月十四日

海軍省教育局長 白根 熊 三

各鎮守 府參謀長

大學校、機關學校長

軍醫學校、經理學校長 殿

學生練習生課業中止時期ニ關スル件

本人大演習ノ演習部隊ニ臨時補充セラルヘキ各學校
(練習部ヲ含ム) 學生練習生ノ課業ハ來ル九月十五日

海軍公報 (部内限) 第一一〇七號

大正十三年六月十四日

二三五

海軍公報(部内限) 第一一〇七號 大正十三年六月十四日

二三六

之ヲ中止シ演習終結後當時ノ狀況ニ依リ當該所屬長官
(學校長)ノ定ムル期日ニ再興スルコトト定メラレ候
右通牒ス

○ 辭 令

海軍中將 藤原英三郎
陸海軍軍需工業動員協定委員會委員長ヲ命ス(十一月
海軍省)

1683

(限 内 部)

海軍公報 (部内限) 第千八百號

海軍大臣官房

大正十三年六月十七日(火)



○ 辭 令

海軍機關大佐 小野寺 恕

潜水艦制度調査會委員ヲ命ス

海軍警査 江口 源太郎

支那上海へ出張ヲ命ス(以上十六日海軍省)

○ 雜 款

○ 職工解備

海軍艦政本部ニ於テ本年四月中解備セル職工左ノ如シ

解備月日	解備事由	職工名	氏 名	生年月日	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
四、一	依 願	記録工		明治 癸、八、二	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同 九	同	圖 工		癸、一、一	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同 一六	海軍工務規則第 二十八條第六項	同		癸、二、三	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同 二一	依 願	同		癸、二、一〇	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同

海軍公報(部内限)第一一〇八號 大正十三年六月十七日

二三七

(限 内 部)

海軍公報

(部内限) 第千百十號

海軍大臣官房

大正十三年六月二十一日(土)

○通牒

教育機密第一三七號

大正十三年六月二十一日

海軍省教育局長 白根 熊 三

第一、第二艦隊參謀長
各鎮守府、要港部參謀長 殿

射擊、發射、通信訓練成績表ヲ海軍
潜水學校長ニ送附ノ件

左記成績表並意見ニシテ潜水艦ニ關係アルモノハ當分
ノ内一通宛海軍潜水學校長ニ送附セシメラルル様御取
計ヲ得度
右依命申進ス

記

- 一、艦砲射擊訓練規則中 艦砲射擊報告第一表 第二表 第三表 及砲員檢定報告並所屬長官ノ檢定ニ關スル意見
- 二、魚雷發射訓練規則中 魚雷發射成績第一表

- 三、通信訓練規則中 潜水艦通信檢定綜合成績表(無線電信) 並所屬長官通信檢定(無線電信)ニ關スル意見
- 四、部隊通信實施規程中 第二種部隊通信ニ關スル所屬長官作製ノ通信要表

海軍公報(部内限) 第一二〇號 大正十三年六月二十一日

二四一

1687

海軍公報

(部内限) 第千百十一號

大正十三年六月二十三日(月)

海軍大臣官房(出)

○令達

官房第一九六五號

大正十一年官房第三六三三號ハ之ヲ廢止ス

(消)

大正十三年六月二十三日

海軍大臣 財部 彪

○通牒

官房機密第八五六號ノ三

大正十三年六月二十三日

海軍省副官 藤田 尚徳

出師準備調査會委員長長宛左ノ通訓令セラレタリ
右通牒ス

官房機密第八五六號ノ二

記

大正十三年六月二十三日

海軍大臣 財部 彪

海軍公報(部内限) 第一二二號 大正十三年六月二十三日

二四三

出師準備調査會委員長 藤原英三郎殿

一、貴官ハ委員ヲ督シ出師準備ニ關スル左記諸項ヲ審議考究シ結果ヲ報告スヘシ

(一) 軍需品ノ生産力及資源ノ調査ニ關スル方策

(二) 出師準備ヲ具體的ナラシムル爲ノ方策

(三) 軍需資源ト用兵上ノ要求トノ調節

(四) 特設艦船、戰時建築及戰時要員ニ關スル整備、計畫ノ方策

(五) 關係各局部ノ事務所掌區分及其ノ聯絡

二、會務ヲ整理セシムル爲委員中ヨリ幹事若干人ヲ命

スルコトヲ得

三、委員ノ増減ヲ要スルトキハ其ノ都度具申スヘシ

四、必要ニ應シ委員以外海軍關係ノ諸官ニ會議ニ列席

ヲ要請スルコトヲ得

右訓令ス

○辭令

出師準備調査會委員長ヲ命ス

海軍中將 藤原英三郎

海軍少將 關 干 城

海軍大佐 遠 藤 格

同 森 田 登

同 市來崎慶一

同 井上肇治

海軍中佐 貝沼門次郎

同 佐藤三郎

同 山口長南

同 大野 功

同 原 五郎

同 少林宗之助

同 菅沼 恕人

海軍少佐 石原 戒造

同 佐藤 信平

同 杉浦 輝久

同 小松 龍雄

同 松岡 久武

海軍機關少佐 鈴木 大助

海軍主計中佐 武井 卓四郎

海軍造船中佐 河東 重時

海軍造船中佐 吉原 毅一

海軍技師 永澤 毅一

(各通)

出師準備調査會委員ヲ命ス

支那方面へ出張ヲ命ス

海軍少將 永野 修身

海軍主計大佐 棚町 五十吉

海軍書記 石渡 騏介

同 小池 宗一

(各通)

亞港へ出張ヲ命ス(以上皆請海軍省)

海軍公報

(部内限) 第千百十二號

海軍大臣官房

大正十三年六月二十四日(火)

○通牒

官房機密第八七四號

大正十三年六月二十四日

海軍省副官 藤田尚徳

關係各應御中

石見爆彈實驗ニ關スル件

一、石見爆彈實驗豫定

日程 實驗種類及使用飛行機

場所

實驗前日 中型爆彈、飛行機ヲ使用セス

橫須賀軍港

第一日 小型爆彈、海軍飛行機

橫須賀軍港

第二日 大型爆彈、海軍飛行機

相模灘

第三日 中型爆彈、同右

相模灘

第一日ヲ七月八日(火)ト豫定ス

二、部内見學希望ノ向ハ七月一日迄ニ横須賀鎮守府ニ

申出テ其ノ許可證ヲ受クヘシ但便宜上東京方面ニ

在リテハ各部取纏メ軍務局ニ通報スルコト

三、見學ハ第二、三日トス但希望者多數ノ場合ハ見學
期日等制限スルコトアルヘシ

艦本機密第一六九一號

大正十三年六月二十四日

海軍艦政本部長 吉川安平

海軍省軍需局長 藤原英三郎

關係各部御中

艦政本部、軍需局間兵器分掌内規ノ件

大正十二年四月二日艦本機密第一三五四號(海軍公報

「部内限」第八百四十六號參照)首題ノ件別紙ノ通告

正相成候

(希)

右通牒ス

艦政本部、軍需局間兵器分掌内規

一、兩系主務分擔區分ノ概要

艦政系

(イ) 兵器定數標準ニ關スルコト

(ロ) 兵器造修試驗檢査規則ニ關スルコト

海軍公報(部内限)第一一二三號

大正十三年六月二十四日

二四五

(ハ) 分擔區分又ハ要求元如何ニ拘ハラズ豫算ノ
 令示手順(軍需部整理消耗兵器製造ニ關スルコト)
 (ニ) 註文事務(軍需部整理消耗兵器ニ關スルコト)
 (ホ) 豫算ノ運用並整理ニ關スルコト

軍需系

(イ) 兵器簿及戰時兵器充當表ニ關スルコト
 (ロ) 兵器經理規程ニ關スルコト
 (ハ) 軍需部整理消耗兵器ノ註文事務並ニ同豫算
 ノ令示手順ニ關スルコト
 (ニ) 移用豫算ノ運用並整理ニ關スルコト

(備考) 兵器ハ別ニ規定アルモノヲ除クノ外艦
 政系ニ於テ計畫、製造、購買、監督及
 検査ヲ行ヒ兵器トシテ庫納ヲ了シタル
 時機ニ於テ軍需系ノ所掌ニ移ルモノト
 ス

二、豫算

造兵豫算中ノ軍需品整備費ヲ軍需系ニ移シ軍事費造
 船造兵及修理費ニ關シテハ軍需部整理消耗兵器製造
 費、在庫兵器修理費並ニ製兵器ノ保管運搬ニ要スル
 雜費ハ其ノ額ヲ豫定シ軍需系ノ使用ニ移ス

三、兵器ノ製造購買ニ關スル事務ハ艦政系ノ所掌トス
 但シ軍需部整理消耗兵器ノ購買事務ハ軍需系ノ所掌
 トス

(イ) 軍需系ニ於テハ其ノ豫算(軍需部整理消耗兵器)ノ
(ニ關スルモノヲ除ク)

範圍内ニ於テ所要兵器ノ註文請求書ヲ艦政系
 ニ送付ス

(ロ) 艦政本部ハ造兵月報及豫算使用見込訓書等ヲ
 回覽シテ軍需系豫算消化狀況並當該年度豫
 定完成數量等ヲ軍需局ニ通知ス
 新艦兵裝用、新設各部充當用、訓令工事及實験
 兵器ニ關シテハ艦政本部發動シ要スレハ軍需
 局ト協議ス

(ハ) 既成艦其ノ他各部ニ對スル供給用ノ新式兵器
 ニ關シテハ艦政本部發動スルヲ例トシ軍需局
 ト協議ス

四、兵器ノ改造及修理
 供用兵器ノ改造及修理ハ艦政系之ヲ實施ス但シ其ノ
 重要ナル改造及供給上關係アルモノハ之ヲ軍需局ト
 協議ス
 在庫兵器ノ改造及修理ハ兩系協議ノ上艦政系之ヲ行
 フ

五、兵器ノ検査

(イ) 兵器(軍需部整理消耗兵器中其ノ検査)ノ検査ハ艦政
 系ノ所掌トス但シ在庫兵器處分上必要トスル
 検査(粗材タル兵器)ハ軍需系發動シ艦政系之ヲ
 行フ

(ロ) 納入先軍需部ナル監督官検査済兵器(契約ニ依
 ニテ持込検査ヲ爲スモノ及軍需部整理消耗兵器)ノ解荷
 中其ノ検査ヲ工作場ニ行フヘキモノヲ除ク

- 検査ハ軍需部之ヲ行フモノトス
航空兵器中輸送ノ關係上其ノ納入先航空隊ナルモノニ在リテハ其ノ解荷検査ハ航空隊之ヲ行ヒ假領收證ヲ關係軍需部ニ送付スルモノトス
- (ハ) 兵器中輸送ニ依リ變調ヲ來ス虞アルモノニ在リテハ軍需部ハ其ノ受領後之カ検査ヲ工廠ニ委託スルモノトス但シ監督官検査濟兵器ニシテ工作應ニテ持込検査ヲ爲スモノハ此ノ限ニ非ス
- 六、兵器ノ名稱及主管別
兵器ノ名稱及主管別ノ決定ハ軍需局ノ主務トシ艦政本部ト協議ノ上之ヲ行フ但シ新兵器ニ關シテハ艦政本部發動ス
- 七、兵器ノ供給
(イ) 兵器ノ供給ハ軍需系ノ所掌トス
(ロ) 新造艦船充當用及新設各部用兵器(改造ニ伴ヒ増加スル兵器ヲ含ム)ノ整備ハ艦政系ノ所掌トス
(ハ) 新造艦船及新設各部充當用トシテ準備セル兵器(改造ニ伴ヒ増加スル兵器ヲ含ム)ノ供給ニ關シテハ軍需局ハ艦政本部ノ要求ニ應スルモノトス
前項兵器ヲ他ニ流用ノ必要ヲ生シタルトキハ軍需局ハ艦政本部ト協議スルモノトス
- (ニ) 軍需系ハ左記諸項ノ實行ニ關シ艦政系ノ要求ニ應スルモノトス
(一) 新造艦船及新設各部充當兵器ニ對シ一般用在庫品供給又ハ繰替供給
(二) 訓令工事用兵器又ハ實驗用兵器ノ在庫品充當
(ホ) 新式兵器ノ供給ニ關シテハ艦政系ノ要求ニ應シ又ハ協議ノ上軍需系發動ス
- 八、兵器ノ整理(保管及保管轉換)
(イ) 兵器ノ保管及運搬ハ軍需系ノ所掌トス但シ庫納前ハ艦政系ノ所掌トス
(ロ) 兵器ノ保管轉換ハ軍需局ノ所掌トス必要アル場合ニハ艦政本部ノ協議ニ應シ之カ發動ヲ爲ス
- (ハ) 艦政系ハ新造艦船及新設各部充當兵器ノ運搬費ニ關シテハ軍需系ノ要求ニ應スルモノトス
- 九、兵器關係書類
(イ) 兵器及兵裝ノ計畫、兵器ノ製造、改修、取扱其ノ他新艦用兵器ノ充當豫定等其ノ主務ニ屬スル書類ノ作製並配布ハ艦政系ノ主務トス必要ニ應シ之ヲ軍需系ニ配付又ハ回覽ス
(ロ) 兵器ノ準備、保管、供給、出納等其ノ主務ニ屬スル書類ノ作製並配布ハ軍需系ノ主務トス必要ニ應シ之ヲ艦政系ニ配付又ハ回覽ス

海軍公報(部内限)第一二二二號 大正十三年六月二十四日

二四七

海軍報（部内限）第一一二號 大正十三年六月二十四日

二四八

需品ニ準スル兵器ハ阿系協議ノ上逐次之ヲ需品ニ變更
スルモノトス

1693

(部 内 限)

海軍公報

(部内限) 第千百十三號

海軍大臣官房

大正十三年六月二十六日(木)

○ 通 牒

人秘第四〇號

大正十三年六月二十三日

海軍省人事局長 山梨勝之進

關係各廳長殿

敍勳加算年ニ關スル件

敍勳内則改正ノ結果同則第二十六條但書ニ於テ恩給法第三十五條ニ該當スルモノニ就テハ議定官ノ議決ヲ以テ取捨スルコトニ規定セラレ候處今般其筋ト協議ノ結果特別ノ指令ナキ限リ大正十二年十月一日以降外國鎮成ノ任務ニ服シタルモノニ對スル加算ハ恩給年加算調書中外國鎮成ノ任務ニ服シタルモノヲ適用シ得ル儀ト御了承相成度
右通知ス

○ 雜 款

海軍公報(部内限) 第一二一三號

大正十三年六月二十六日

二四九

○九版内令提要(大正十二年十月一日)
右ハ本月十四日ヲ以テ發送ヲ了セリ(海軍大臣官房)

海軍公報 (部内限) 號外

大正十三年六月二十六日(木)
海軍大臣官房

聯合艦隊戰技施行豫定期日一覽表

施行期日	第一艦隊		第二艦隊		施行場所 (補給基地)
	施行部隊	戰技種類	施行部隊	戰技種類	
七二六	單獨訓練	訓練	單獨訓練	訓練	後水
一七	日向、山城	第六回教練射擊	單獨訓練	訓練	
一八	單獨訓練	訓練	金剛、比叡	第六回教練射擊	後水
一九	第一水雷戰隊	戰鬥掃海	單獨訓練	訓練	
二〇	單獨訓練	訓練	第二水雷戰隊	戰鬥掃海	後水
二一	豫備又ハ	ハ	研究會	會	
二二	豫備又ハ	ハ	研究會	會	後水
二三	潜水艦單艦戰術發射(晝夜)運轉、天龍戰術射擊(晝夜)運轉、五十鈴、多摩星彈研究射擊	運轉	潜水艦單艦戰術發射(晝夜)運轉	運轉	
二四	第十六驅逐隊	戰鬥射擊(晝夜)發射(夜)	北	戰鬥射擊(晝夜)運轉	後水
二五	長門、陸奥	第六回教練射擊、第六回教練射擊(金剛、比叡、第一驅逐隊)	研究會	會	
二六	豫備又ハ	ハ	研究會	會	後水
二七	第十五驅逐隊	戰鬥射擊(晝夜)發射(夜)	單獨訓練	訓練	
二八	單獨訓練	訓練	第五驅逐隊	戰鬥射擊(晝夜)發射(夜)	後水
二九	第十四驅逐隊	戰鬥射擊(晝夜)發射(夜)	單獨訓練	訓練	
三〇	第十三驅逐隊	運轉	第四驅逐隊	戰鬥射擊(夜)發射(夜)	後水
三一	常磐	戰鬥發射(晝)運轉	第二潜水戰隊	戰鬥發射(晝)運轉	
八一	第一潜水戰隊	戰鬥發射(晝)運轉	金剛、比叡	戰鬥發射(晝)運轉	後水
二	夕張	戰鬥發射(晝)運轉	名取、長良	戰鬥發射(晝)運轉	
三	第一掃海隊	戰鬥發射(晝)運轉	由良、平戶	戰鬥發射(晝)運轉	後水
四	日向、山城	戰鬥發射(晝)運轉	研究會	會	
五	豫備又ハ	ハ	研究會	會	後水
六	豫備又ハ	ハ	研究會	會	
七	迅	戰鬥發射	第四戰隊	戰鬥發射、發射、運轉	後水
八	第一戰隊	戰鬥發射	第五戰隊	戰鬥發射、運轉	
九	長門、陸奥	戰鬥發射	單獨訓練	訓練	後水
一〇	日向、山城	戰鬥發射、運轉	平戶	戰鬥發射、運轉	
一一	第三戰隊	戰鬥發射、運轉	研究會	會	後水
一二	豫備又ハ	ハ	研究會	會	
一三	豫備又ハ	ハ	研究會	會	後水
一四	豫備又ハ	ハ	研究會	會	
一五	豫備又ハ	ハ	研究會	會	後水
二二	單獨訓練	訓練	(吳發)		
二三	單獨訓練	訓練	第二驅逐隊	戰鬥發射(晝)	後水
二四	第一、第二水雷戰隊、第三、第五戰隊、第一、第二水雷戰隊	戰鬥發射、運轉	第四驅逐隊	戰鬥發射、運轉	
二五	單獨訓練	訓練	研究會	會	後水
二六	研究會	會	研究會	會	

(限 内 部)

海軍公報 (部内限) 第千百十四號

海軍大臣官房

大正十三年六月二十八日(土)

○令 達

官房第二〇五四號

這般内閣總理大臣ヨリ發セラレタル官紀振肅ニ關スル訓諭ハ凡テ之時弊匡救ノ儀ナリ各員克ク其ノ旨ヲ體シ常住座臥服膺ヲ懈ラサラムコトヲ要ス惟フニ我カ海軍部内ニ於テハ幸ニシテ先人確立ノ傳統的精神ト各員不墮ノ戒心トニ因リ自ラ一箇ノ風ヲ成シ既往ヲ以テ將來ヲ推スモ概ネ本訓諭ノ趣旨ニ對フルヲ得ヘク今改メテ其ノ各項ニ付之ヲ紹述スルノ要ナキヲ悅フ然リト雖單ニ須要トスル所ハ軍紀ノ振肅ニシテ部外一般官廳ニ於ケル官紀ト自ラ其ノ度ヲ異ニスルモノアリ即チ軍人ハ單ニ官吏服務規律ヲ恪守スルヲ以テ足レトモス垂諭ノ五箇條ヲ首トシ其ノ他特殊ノ法令ヲ以テ處身ノ信條トス故ニ各員ハ本訓諭ニ接スルヤ當ニ其ノ揭記ノ各項ヲ反省スルニ止マラス克ク根本ノ真義ニ鑑ミ大ニ戒心スル所アルヘシ

右訓示ス

大正十三年六月二十八日

海軍大臣 財 部 彪

○通 牒

軍務第三七八號

大正十三年六月十二日

海軍省軍務局長 小林 躋 造

關係各廳長殿

潜水艦乗員ノ居住及上陸ニ關スル件

先般内令第四百四十四號ヲ以テ潜水隊、潜水艦ニ臨時増員ヲ置カルルコトト相成自然艦内居住上ノ難問ヲ伴フモノト被存候處爾今碇泊中ニ於ケル潜水艦乗員ノ居住及上陸ニ關シテハ左記ノ方針ニ據リ實施相成様致度右依命申進ス

記

海軍公報(部内限)第一二一四號 大正十三年六月二十八日

二五二

1696

- 一 本日ニ於テハ軍事點檢後又ハ軍事點檢ヲ行ハサルトキハ夕食後(准士官以上ニ在リテハ午後止業後)ヨリ、日曜日、祝日、祭日、紀念日其ノ他ノ公暇日ニ於テハ式後又ハ之ニ準スル時刻ヨリ翌朝日課手入開始時刻(准士官以上ニ在リテハ翌朝始業時)ニ至ル間潜水艦内ニ於ケル居住ヲ著シク窮屈ナラシメス且艦ノ保安ニ支障ナキ程度ノ人員ヲ在艦セシメ其ノ他ノ者ハ母艦、母艇又ハ陸上宿舍ニ起臥セシムルコトヲ得
- 二 前號以外ノ場合ニ於テハ潜水艦乗員ノ居住ハ常ニ其ノ乘艦ヲ本據トス但シ特ニ母艦、母艇又ハ陸上宿舍ニ在リテ業務ニ服スルノ必要アル者ハ此ノ限ニ在ラス
- 三 艦船部隊上陸外出規則第三條ニ依リ定例以上ノ上陸ヲ許スハ母艦、母艇又ハ陸上宿舍ニ起臥スルノ便宜ヲ得サル場合ニ限ル

艦本第一七二一號

大正十三年六月二十八日

海軍艦政本部長 吉川 安平

各工廠長 殿

艦隊就役中ノ軍艦、驅逐隊、潜水隊ニ
造船進兵修理用材料供給ノ件

大正十二年七月十七日附艦本機密第二六九三號通牒ノ

本件供給シ得ヘキ艦種及年度配付豫算額中ニ左記ノ通
追加致候
右通牒ス
記

艦種	年度配付豫算額 (單位圓)		
	船體	機關	兵器
潜水母艦	四〇〇	八〇〇	四〇〇
航空母艦	四〇〇	八〇〇	一、三〇〇 (内一、〇〇〇別ハ航空長官管兵器)
敷設艦	四〇〇	八〇〇	三〇〇

(大正十二年七月十七日海軍公報(部内報)參照)

大正十三年六月二十七日

横須賀鎮守府副官 吉田 繼 輔

各所轄長 殿

石見實驗見學ノ件

一、部内高等官ニ本實驗見學ヲ許可セラル但シ便乘艦
收容員數ヲ超過スルトキハ一部制限セラルコト

アルヘシ

二、見學希望者ハ各所轄ニ於テ取纏メ其ノ官氏名ヲ七月一日迄ニ通知サレ度

三、見學者ニハ許可證ヲ交付ス

見學者ニハ旅費ハ支給セラレヌ

四、見學者ハ第一日ハ便宜ノ位置ニ在リテ見學シ第二日以後ハ辨當携帶軍艦阿蘇ニ便乗スルモノトス但シ長浦方面ノ見學者ハ浦風ニ、砲術學校ノ見學者ハ島風ニ便乗スルコトヲ得

五、阿蘇便乗ノ見學者ハ第二日夜ハ館山入港後陸上ニ宿泊スルモノトス但シ已ムル得サル者ニ限り館山ニテ島風ニ便乗横須賀ニ歸還スルコトヲ得

六、見學者ノ爲左ノ便船ヲ出ス

第二日午前六時四十分(六時三十七分横須賀寄著汽車ヲ待合) 港務部汽艇

逸見發 阿蘇行(七時三十九分横須賀寄著汽車ヲ待合) 港務部汽艇

第二、第三日午前七時五十分(七時三十九分横須賀寄著汽車ヲ待合) 逸見發 沙風行(海軍省特 定見學者) 港務部汽艇

○雜款

○通信

海軍無線電信所部外通信狀況要覽中無線電信所東京ノ項通信時間ノ欄「午前十時、午後六時、午後八時ヨリ各一時間」ヲ「午前六時、午後八時ヨリ各一時間」ニ改ム

(大正十二年八月六日(部内限)公報参照)

(限 内 部)

海軍公報

(部内限) 第千百十五號

海軍大臣官房

大正十三年六月三十日(月)

○通牒

教育第二八號ノ一九

大正十三年六月二十七日

海軍省教育局

無線電信遠距離受信檢定成績調査資料ノ件

大正十三年六月第十九回無線電信遠距離受信檢定信文

送信要目左記ノ通

右通知ス

番號	送信日時	波長 (米)	送信地 電流	速度 (二分間)	信文修正
一	六月二十日 午前八時一分	二六〇〇	三	九三三	本文九字目「サ」ハ不 正字、同五十八字目 「モ」ハ大ニ開闢アリ
二	九時一分	三六〇〇	三	九三八	
三	十時三分	三六〇〇	三	九〇	

備考	時間	波長	速度	修正
一	天候晴、送信状態良			
二	送信番號七ハ取止メ			

時間	波長	速度	修正
四同十一時一分	二六〇〇	三	九二
五午後零時二分	三六〇〇	三	九三
六同一時四分	二六〇〇	三	九二
八同二時五分	三六〇〇	三	九四五
九同三時一分	三六〇〇	三	九三

○雜款

○正誤

本月二十八日公報(部内限)令送欄官房第二〇五四號中
七行目「單」ハ「軍」ノ、通牒欄軍務第三七八號ノ日附
「十二日」ハ「二十八日」ノ孰レモ誤

海軍公報(部内限)第一二一五號

大正十三年六月三十日

二五五